

執筆者紹介（掲載順）

中島淑恵(Toshie NAKAJIMA)

富山大学人文学部教授。富山大学ヘルン（小泉八雲）研究会メンバー。近年の関連著作：

« La réception de Lafcadio Hearn par ses contemporains parisiens- Essai sur la japonisme littéraire à la Belle Époque » in Britta Benert dir. *Paradoxe du plurilinguisme Littéraire 1900*, Peter Lang, 2015、「ラフカディオ・ハーンとシャルル・ボードレールーボードレールの4つの散文詩の英訳をめぐって」『富山大学人文学部紀要』第65号、2016年など多数。

水野 真理子 (Mariko MIZUNO)

富山大学大学院医学薬学研究部医療基礎（英語）准教授。専門はアメリカ研究、日系アメリカ文学研究。19世紀から20世紀半ばにかけての「越境者」たちの文学活動に興味を持っている。

「ハーン研究における新たな論点および再考—日系アメリカ文学、日系移民史の視点から」『ヘルン研究』創刊号、2016年3月。

結城史郎(Shiro YUUKI)

富山大学人文学部准教授。ラフカディオ・ハーンに関連する業績等：「ラフカディオ・ハーンとケルト神話—異界との交流—」、『ヘルン研究』、創刊号、2016年、pp.39-51。“The Impact of Lafcadio Hearn on Japanese Culture: A Reading of "Yuki-Onna." Proceedings of

Dublin City College / Sanin Japan-Ireland Assn, October 8, 2015: The Open Mind of Patrick Lafcadio Hearn—Coming Home. 20 February 2017

<[http://hearn2015.sanin-japan-ireland.org/wordpress/wp-content/uploads/2016/03/hearnandjapan\\_proceedings.pdf](http://hearn2015.sanin-japan-ireland.org/wordpress/wp-content/uploads/2016/03/hearnandjapan_proceedings.pdf)> 2016. pp.10-11.

難波江 仁美 (Hitomi NABAE)

神戸市外国語大学教授。アメリカ文学、比較文学。主たる関心は19世紀末からモダニズムの国外在住作家。ハーンに関しては「脱アメリカ的『個』—『わたしの歌』から『みんなの歌へ』」

『講座小泉八雲 II: ハーンの文学世界』(2009)、*The Spirit of No Place: Reportage, Translation and Re-told Stories in Lafcadio Hearn* (2014)、“Creolization in Lafcadio Hearn’s New Orleans and Martinique Writings”*Review of International American Studies* Vol. 7 (2014) など。

廣松 勲 (Isao HIROMATSU)

法政大学国際文化学部専任講師。日本ケベック学会、日本フランス語フランス文学会、日本フランス語教育学会、日本フランス語圏文学研究会、ベルギー研究会等に所属。専門はフランス語圏文学、特にカリブ海域文学およびケベックのハイチ系移民文学。博士論文「*Melancolie postcoloniale : relecture de la memoire collective et du lieu d'appartenance identitaire chez Patrick Chamoiseau et Emile Ollivier*」（モントリオール大学提出、2012年）。

長岡 真吾(Singo NAGAOKA)

島根大学法文学部教授。「ラフカディオ・ハーンの眼----ハーンの視力と言葉をめぐる試論」八雲会『へるん』第47号(2010):4-14。“Greek, Irish and/or British?: Hearn’s Immigration to America and His Cultural Identities.” in Nagaoka, Shingo, et al., eds. *Proceedings: International Symposium on “the Open Mind of Lafcadio Hearn: His Spirit from the West to the East.”* Tokyo: The Planning Committee for the Memorial Events in Greece to Commemorate the 110th Anniversary of Lafcadio Hearn’s Death, 2014: 52-55. 「大英帝国とラフカディオ・ハーンの伝記記述 英国軍医はイオニアの男に刺されたのか？」春風社『帝国と文化 シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』476-499。

#### 西成彦(Masahiko NISHI)

立命館大学先端総合学術研究科教授。ハーンに関するおもな著作は『ラフカディオ・ハーンの耳』(岩波書店、1993)、『耳の悦楽／ラフカディオ・ハーンと女たち』(紀伊國屋書店、2004)。

#### 小谷瑛輔(Eisuke KOTANI)

富山大学人文学部准教授。専門は芥川龍之介を中心とした日本近現代文学。ハーン関連著作に、「蝶になりたい小泉八雲」『ヘルン研究』2016年3月、「Lafcadio Hearn and Akutagawa Ryunosuke」『Proceedings LECTURES Lafcadio Hearn & Japan』2016年3月など。

#### 西田谷洋(Hiroshi NISHITAYA)

富山大学人間発達科学部教授。専門は日本近代文学。ラフカディオ・ハーンに関連する業績に「物語のポライトネス—小泉八雲の怪談を事例として」、『ヘルン研究』、創刊号、2016年、pp.95-103。

#### 池田志郎(Shiro IKEDA)

熊本大学教育学部准教授。ハーンの「停車場にて」の構造、西川盛雄(編)『ハーン曼荼羅』北星堂、2008年、87-99頁。成功物語としての「耳なし芳一」、坂元昌樹 他(編)『ハーンのかなざし』熊本出版文化会館、2012年、33-54頁。

#### 濱田 明(Akira HAMADA)

熊本大学文学部教授。熊本大学ハーン研究会メンバー。専門の16世紀フランス文学に加え、熊本で教鞭をとった漱石・ハーンについての研究も行っている。ハーンについては、「20世紀初頭におけるフランスにおけるハーンを受容」(日本語、仏語)、「ハーンとフランス文学」(仏語)の論文を発表している。

#### 西川盛雄(Morio NISHIKAWA)

熊本大学名誉教授。同客員教授(熊本大学学術資料調査研究推進室々員)。主な単著・編著に『ラフカディオ・ハーン=近代化と異文化理解の諸相=』、九州大学出版(編著)2005年、『ハーン曼荼羅』北星堂(編著)2008年、『ラフカディオ・ハーンの魅力』新宿書房(単著)2016年